発行所株式会社空調タイムス社
本　　社（〒105-0013）
東京都港区浜松町1－23－2
（山下ビル）
電話代表番号　東京3433局6501
FAX：東京　3433－6505
関西支社（〒530-0015）
大阪市北区中崎西1-4-22(梅田東ビル)
電話代表番号　大阪6312局6061
URL　http://ac-times.com

空調タイムス
THE AIR－CONDITIONING TIMES
購読料一ヵ年19,440円　発行日毎週水曜日

5|29|水
2019年〈令和元年〉
週　刊
第2777号

用製氷設備
用製氷設備
■LPG再
ム発売中
NISSIN
やす"
ます
ページへ
f.co.jp
〒532-0005
〒144-005
〒424-080

業界へ恩返しを　モリカワ

冷媒の高圧化　対応へ注力も

製販一体グループ連携で

森川　潔会長

森川　毅社長

猪俣　恵津夫執行役員

冷媒用各種弁類である冷凍空調機器ならびに、有機溶剤であるVOCなどのガス回収装置といった環境機器を取り扱うモリカワ（社長＝森川毅氏、本社・東京都豊島区東池袋5－45－5）は、この度〝令和〟への改元を機に、新たにメーカーとしての立ち位置を確立した。変動の平成最終年となった昨年3月には、次世代への継承を旨に世代交代を行い、前取締役副社長であった森川毅氏を社長に就任。同氏は前社長で現代表取締役会長の森川潔氏の長男。弱冠40歳という若い世代への事業継承が図られたことで、今後の同社の成長も期待される。

同時に11月には平成30年秋の叙勲で森川潔会長が旭日単光章を受章。旭日単光章は各分野における顕著な功績のあった者へ授与される勲章で、安定的・継続的に地域で活躍している企業の優れた経営者にも受章範囲が広がったことから、同社の元代表取締役社長として贈られた。

重ねて、今年4月1日付で、グループ企業で森川グループの基軸企業である森川産業のバルブ製品製造事業をモリカワが吸収合併し、名実ともに製販一体のメーカーとして生まれ変わった。

今回の事業統合については、同社の歴史に起因することが大きい。モリカワの前身は1945年（昭和21年）に森川寿氏（森川潔氏の実父で森川毅氏の祖父）の手により軽合金鋳造の製造（その後、精密鋳造、自動車部品の製造を主力とする）を目的に興した森川産業が61年（昭和36年）にバルブ機械工場を新設し、その2ヵ月後に総販売元として森川興業（現・モリカワの前身）を創設。森川産業では鋳造、加工、組立、テストの一貫生産体制で稼動開始するとともに、一方では各種冷凍冷房用バルブの販売を開始した。

ちなみに現在のモリカワの社名は65年（昭和40年）の森川バルブへの社名変更の後、98年（平成10年）に森川バルブと森川産業・東京事業所を統合し変更したものだ。同様に森川産業（社長＝森川潤一氏、本社・長野県千曲市）、騒音防止機器、局所排気装置の設計施工、販売を手掛けるコトブキ通商（社長＝森川英樹氏、本社・長野県千曲市）。そしてモリカワはそれぞれ同グループの森川寿氏の長男、次男、三男へと継承されたのち、さらに現在、それぞれの長男へとバトンが渡されている。三代に渡り、森川家が継承を行い何れも企業発展を果たしているということだ。

◇

さて、同社会長である森川潔氏は一方で空調冷熱業界における唯一のメーカー団体である一般社団法人日本冷凍空調工業会（以下＝日冷工）において10数年に亘り、同会監事の責務を果たしている。この度の日冷工創立70周年については「こうした業界団体で理事会へ出席する監事を拝命して10数年となるが、先ずは周年を迎えたことは誠に喜ばしいことであり、また当社においては常にお陰様という気持ちがある。こうした各メーカーの重鎮の方々と席を同じくしてきたことで、存在感を示せたと感じている。昨年は身に余る栄誉として旭日単光章を受章したこともこうした活動の賜物であり感謝している。日冷工は環境問題に強い専門団体として業界も業界のリーダー的立場でさらに世界へアピールすることに期待している。また当社の機構も変化したことで今後はさらに業界に対し恩返しを果たしていきたい」とした。

さて今後の同社の動向について森川毅社長は「モノづくりを担うということは、単に販売を行うということに比べ、リスクや投資も拡大するが市場に対するニーズの汲み取りとユーザーへのレスポンスの確度とスピードが増すという大きなメリットもある。市場の声を如何にはやくモノづくりに反映させていくかという事が使命と捉えている。背景としてはこれからの時代は如何にこうしたマーケット・イン的な考え方に基づきモノづくりを行っていかなくては、おそらく時代に取り残されていくだろうという考えに立って今回の事業統合を決断した」とその経緯を語った。

具体的な施策としてはバルブ関連については、現行の冷媒の変化に素早く対応できる仕組み作りを構築するとともに、高圧化の対応をさらに強化する構え。他方、環境機器については昨年、2018年度日本産業洗浄協議会産業洗浄優秀新製品賞を受賞した次世代フッ素系溶剤（HFO系）に対応した新型溶剤ガス回収装置「REARTH（ε）SシリーズFR型」などを中心に拡販に注力する。そのうえで両社の市場層を跨がせていくことが最大のテーマとなる。空調冷熱市場における環境関連製品、工場などの生産施設における空調冷熱製品の浸透といったように、グループ3社がさらに連携を強め、森川グループとしての市場浸透を図っていくものとしている。

創立70周年に寄

世界牽引する工業会へ、貢献果たす

日本の空調業界は、リーマンショック後、堅調な需要に支えられてこの10年間は伸張してきた。この間、業界としては『地球環境への対応』『グローバル化への取り組み』に重点をおいた取り組みを行ってきた。『地球環境への対応』では、オゾン層保護や地球温暖化抑制に対応するために冷媒の変更や空調機の省エネの向上に取り組んできた。『グローバル化への取り組み』では、日本の取り組みを海外へ発信し、省エネ技術等を積極的に海外に普及してきた。

日本では、この『地球環境への取り組み』で生まれた商品や業界の取り組みがお客様からも評価を得て、する[illegible]日本の空調業界及び空調メーカーのステータスを上げ、日本の空調メーカーのグローバル化も支えてきた。

弊社においても、2015年に米国のジョンソンコントロールズと旧日立アプライアンス（現日立グローバルライフソリューションズ）の空調部門が合弁企業を設立し、新しい空調機の適[illegible]界』をビジョンに、多様性のある画期的な製品を供給することで社会に貢献することを目的に事業を展開している。弊社もこの10年間、順調に業績を伸ばし、特に合弁企業として発足してから、大きく伸ばすことができている。この合弁企業は、双方の会社にとって商品の種類や販売チャネルを[illegible]ーバルに挑戦し、成長して国際社会に貢献していく。

令和時代を迎えて、空調業界は今後も環境問題解決のための『省エネ』『新冷媒』、そして途上国支援や国際協調を含む『国際活動の推進』が引き続きキーワードになり、メインの取り組むべきテーマとなっていくと考えている。このテー[illegible]機と結び付けたお客様にとってメリットのある『IoT化』、製品のライフサイクルを考慮した『省資源化・省エネ化』の評価、お客様や据付業者様にとって魅力ある『新技術・新システム開発』も引き続き開発されていくであろう。

これからも日本の冷凍空調工業会が更に発展し、世界の空調業界を牽引していくように弊社も貢献していく。（寄稿）

HP軸に技術・サービス提供へ

理事　東芝キャリア取締役社長

久保　徹

日本冷凍空調工業会が創立70周年を迎えたことを心よりお慶び申し上げ、支えていただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

この10年間、冷凍空調市場が大きく伸長する中で、日本企業による世界的な買収・提携の動きも相次いでおり、以前に増してグローバルに、そしてダイナミックに変化している産業だと感じている。また、環境問題として地球温暖化防止の重要性が一層高まっている中、冷凍空調業界の役割と責務が益々大きくなった10年でもあった。より快適な空調の実現を求めるお客様の声に応えるべく会員各位が切磋琢磨し、今日の発展を築き上げた冷凍空調業界だが、猛暑などの異常気象も年々増加する中でその重要性は更に高まり、今や空調は「生命維持装置」と言っても過言ではなく、人々の暮らしに欠かせないものとなった。

加えてEUでヒートポンプが生み出す熱エネルギーが再生可能エネルギーに位置付けられ、国内では日本のヒートポンプ技術を世界最高水準と評価し、2020年の再生可能エネルギー導入目標を示してから10年が経つ。当社が、高効率な空冷ヒートポンプチラーの開発とその普及拡大を目指し、国内で初めて必要能力にあわせてモジュールを連結設置できる大型空調機「フレックスモジュールチラー」を世に送り出したのが2004年。以来一貫してモジュールチラーの開発・製造・販売・サービスに取り組み、2010年には「ユニバーサルスマートX」を発売、モジュールチラーという市場を切り拓き、冷凍空調業界の発展に貢献できたことは喜ばしいことであった。

令和という新しい時代を迎え、今後巨大な新興市場の拡大によりグローバリゼーションは更に進み、ヒートポンプの活用用途や地域も一層拡大すると思われる。また、省エネや冷媒の環境規制がより強化され、これに対応する技術[illegible]の革新も進んでいくだろう。更には、冷凍空調業界においてもAIやIoT技術を駆使したものづくり革新と、全体空調システムによる付加価値向上が進むと考えている。そのような変化の激しい時代の中で、工業会は高い技術力を生かし、国内のみならず世界をリードし、更に発展することを確信している。当社としても、ヒートポンプ技術を軸に幅広い分野で商品・システム・サービスを提供し、これからも工業会の一員として社会並びに地球環境に貢献していきたい。

結びに、工業会と冷凍空調業界に携わる皆様の益々のご発展を祈念すると共に、改めて全てのお客様に感謝申し上げ、70周年にあたってのご挨拶とさせていただく。（寄稿）

SHOWA
NEW
新発売
真空式温水ヒーター「エルゴン」
Vacuum Type
Elgon
Hot-Water Generator
Elgon
立形ルーフトップ外気処理機
CareFresh

SINKO
いまあ
オーダ